

IBM(IBM)

【セクター】 情報技術

【市場】 NYSE

【企業概要】

企業向けITサービスで世界最大の会社です。部門別の売上構成比は、情報インフラおよびクラウドサービスを中心とするグローバル・テクノロジー・サービスが36%、クラウドのデータプラットフォームや人工知能などを含むクラウド&コグニティブ・ソフトウェアが30%、コンサルティングなどを含むグローバル・ビジネス・サービスが22%、ハードウェアを中心とするシステムが10%、グローバル・ファイナンスほか2%です。地域別の売上構成比は、米州が47%、欧州・中東・アフリカが32%、アジア太平洋が21%です（19年12月期）。

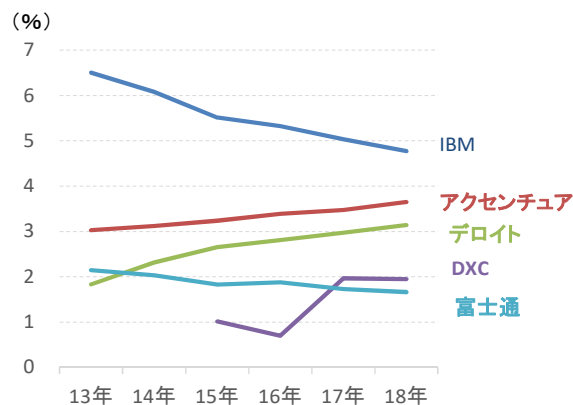
【業績】（単位：売上、純利益は百万ドル、EPS、DPS、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%）

決算期	売上高	純利益	EPS	DPS	BPS	ROE	自己資本比率
18年12月期	79,591	12,411	13.53	6.21	18.8	50.8	13.7
19年12月期	77,147	10,093	11.31	6.43	23.5	50.1	13.8
20年12月期予想	79,106	11,932	13.37	6.70	28.7	47.9	-

※EPS：1株当たり利益、DPS：1株当たり配当、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率（出所）BloombergデータよりSBI証券が作成

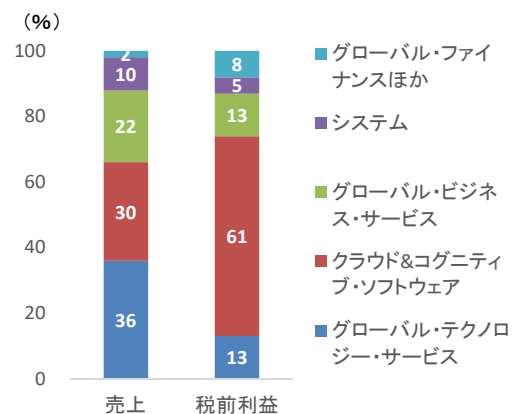
【主要指標】

図表1 ITサービスの世界シェア



（出所）BloombergデータよりSBI証券が作成

図表2 部門別の売上・税前利益構成比（19年12月期）



（出所）会社資料よりSBI証券が作成

【会社の見方】

企業のITシステムがクラウドへ移行する中で、従来型のシステムでトップシェアの同社はシェアを失う部分があり、ここ4～5年は売上・利益とも停滞しています（図表1）。これを打開するためクラウド、ビジネス・アナリティクス、モバイル、セキュリティ、ソーシャルを「戦略上不可欠な分野」として重視、同分野の売上は増加しています。ただ、それ以外の落ち込みによって全体の売上成長は高まっておらず、株式市場で評価されるためには売上増加を示すが必要になっています。売上減少が続いている事業の切り離しやより多くの従業員をコストの低い地域に再配置することなどが必要とみられます。

【見通し・注目点】

19年10-12月期の売上は前年同期比0.1%増と5四半期ぶりにプラスに浮上し、為替の影響を除くと同1%増、さらに売却事業の影響を除くと同3%増と売上モメンタムが改善しました。クラウド&コグニティブ・ソフトウェア部門がクラウド&データ・プラットフォーム分野のけん引により前年同期比9%増と改善し、レッドハットの買収効果が発現してきているとみられます。

（SBI証券 投資情報部 榮 聡）

（更新日 20/1/29）

本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。